

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	排水機場運転管理事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	05	5節	賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）	主管課	河川課			
施策	5-4	多様な方面からの農業の振興		主管課長	中西 辰夫			

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	水田耕作者及び三輪野山 浸水区域の市民	意図	流山排水機場の機能を維持し、操作管理を的確に行うこと により、集中豪雨や台風による浸水被害を軽減させる。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高圧電気設備の保守点検を行う。</li> <li>・ 排水ポンプが24時間稼働できるように業務委託を行う。</li> <li>・ ポンプ施設の保守点検を行う。</li> </ul>			
事業開始から現在までの状況変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水田耕作のための排水機場であったが、平成18年から三輪野山地区の住宅地浸水被害を軽減させるため土木部で運転管理している。</li> <li>・ 昭和55年の排水機場稼働から37年が経過し、老朽化による維持管理費用の増加が予想される。</li> <li>・ 現在効率よく排水操作を行うため住宅地に水位監視システムを導入した。</li> </ul>			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		住宅の浸水被害件数	0	0	0	回	↓↓↓
	運転の回数	5	2	6	回	↓↓↓	実績値
指標で表すことができない定性的な成果					目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球温暖化によるゲリラ豪雨の増加により、前年度にくらべ排水機場運転の回数が増加した。</li> <li>・ 水位監視システムや気象サイトを活用しポンプ運転を的確に行い、浸水被害軽減に努めている。</li> </ul>		
事務事業のコスト		平成27年度	平成28年度	平成29年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		5,942,660	4,592,613	5,264,344			
事業費(b)(円)		5,867,360	4,523,963	5,197,224			
うち一般財源		5,867,360	4,523,963	5,197,224			
職員給与費(c)(円)		75,300	68,650	67,120			
人役・職員(人)		0.01	0.01	0.01			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

今年度(H29)の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 排水機場の修繕や改修について関係機関と継続的に協議する。</li> <li>・ 農業排水施設から都市排水施設への移行を県と協議する。</li> </ul>	取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県へ河川改修の必要性を引き続き説明していく必要がある。</li> <li>・ 農業排水施設を都市排水施設に変更する必要がある。</li> </ul>
今年度(H29)に実施した取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国、県に排水機場を含めた河川改修の必要性を説明した。</li> <li>・ 施設所管替えについて県と協議を実施した。</li> </ul>	今後の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設の修繕や更新、施設所管替えについて県と協議を進める。</li> </ul>